

「月つきのつまつりる風かぜいたり吹きては空そらみつつの黒くろきつ書かくつの数したる月つき黒くろ記しに黒筆くろ来きつて「かつひの候ごう。」と言くは書かくつたる月つきれは公こう任にんの宰相さう殿でんの。」としめるを見わけば、懷わい紙しに、

少すくしの春はるある心こころ地ちにすすれ

とあるはけに今け日にのけしきにこしよちあひたるを「わが本はいかでかつくんからぬや」思おもひわひらひぬ。「たれたれが。」と問くは「それそな。」と言ひ出でむや、心こころに苦しきを、御ご前ぜんに御覧らんせせむとすれど、上のおおせじまして大殿だん籠かごりたり。主しゅ殿でん寮さうは、「よくよく。」と言ふ。ほろろやくあらむは「こしよちあひなけだば、 わはさむい」

空そら寒さむみ花にまがへて散る言に、

と、わななくわななく書かくつてひらせて、「かに思ひらむや」わづづ。「わがこしよちあひを聞きかばやと思おもひらす、そこらわれたらば聞かじいおほゆるを。」俊と賢けんの宰相さうなや」なば、「内侍うち侍じ奏そうじななば。」となむ、定さだめ給ひつ。」とはかりぞ、左ひだり兵へい衛ゑ督とくの、中なかつ將しやうにおおはせり、語かたごり給ひつ。

問題 全ての問いについて、問題に特に指定がなくとも極力漢字で答え、助動詞、助詞、反語、敬語を正確に訳すこと

一 傍線部「一月つきのつまつりる」を口語訳せよ。また「二月ふたつき」の読みを答えよ。

一 傍線部「風かぜいたり吹きては空そらみつつの黒くろきつ」を口語訳せよ。

一 傍線部「主しゅ殿でん寮さう」について、読みを答え、文中での意味を答えよ。

四 傍線部「かつて候は、慣じゆん用的な表現である。現在のどのような言葉に相当するか、答えよ。

五 傍線部「寄よりたるに」を口語訳せよ。また、この動作の主体は誰か。適切な語で答えよ。

六 傍線部「これ、公こう任にんの宰相さう殿でんの」を、省略されている表現を補って口語訳し、「公任の宰相殿」とは誰のことか、姓名を平仮名で答えよ。

七 傍線部「げに今け日にのけしきにこしよちあひたるを」を口語訳せよ。また、助動詞を抜き出し、その文法的意思を答えよ。

八 傍線部「これ」とは何か、答えよ。

九 傍線部「本」とは何か、答えよ。

十 傍線部「いかでか、思おもひわづらひぬ」を口語訳せよ。また、助動詞を全て抜き出し、その文法的意思を答えよ。

十一 傍線部「それそれ」について、意味を答えよ。また、この動作の主体を文中の語で答えよ。

十一 傍線部「みないと恥はづかしき中に」を口語訳せよ。

十二 傍線部「宰相の御ごいらへ」とは何か、答えよ。

十四 傍線部「いかでかことなじひに言ひ出でむ」を口語訳せよ。また、助動詞を抜き出し、その文法的意思を答えよ。

十五 傍線部「心こころに苦しきを」を口語訳せよ。また、この動作の主体はその結果何をしようとしたか、最も端的に表現されている部分を、

文中より抜き出せ。

十六 傍線部「御ご前ぜん」について、読みを答え、具体的に何のことか、漢字十字以内で答えよ。

十七 傍線部「御ご覧らんせせむとすれ」を口語訳せよ。

十八 傍線部「上の」について、一般に何のことか。また、実際に文中では何を指しているか、それぞれ答えよ。

十九 傍線部「おはしまして大だいだん籠かごりたり」を、主語が明らかになるよう適宜補い口語訳せよ。また、助動詞を抜き出し、文法的意思を答えよ。

二十 傍線部「とくとく」について、意味を答えよ。また、主殿寮は誰がとつすることについて言ったのか、説明せよ。

二一 傍線部「げに今け日にのけしきにこしよちあらむは、」について、口語訳せよ。また、「(げに)さへ」の文中での働きを、文法的に説明せよ。

二二 傍線部「いとといひらるなければ、」を口語訳せよ。

二三 傍線部「わはれとて、」を口語訳せよ。

二四 傍線部「空そら寒さむみ花にまがへて散る言に」を口語訳せよ。また、言葉は公任の言葉とともにより書物からの引用である。書物の名を答えよ。

二五 傍線部「わななくわななく書かくつてひらせて」を口語訳せよ。また、「わななくわななく」となったのは何故か、文中を参照して答えよ。

二六 傍線部「いかに思ひらむや」わびし」を、主語、目的語等を明確にした上で口語訳せよ。また、助動詞を抜き出し、文法的意思を答えよ。

二七 傍線部「これがことを聞かばやと思おもひらすに」を助詞に注意して口語訳せよ。

二八 傍線部「そこられたらば聞かじいおほゆるを」を口語訳せよ。また、助動詞を全て抜き出し、文法的意思をそれぞれ答えよ。

二九 傍線部「俊と賢けんの宰相さう」とは誰か、姓名と官職を併せて答えよ。また、「宰相」は唐名である。大和名を漢字で答えよ。

三十 傍線部「なば」の意味を答えよ。

三一 傍線部「内うち侍じ」について、「これは内侍司における第三等級の官職名であるが、正確な名称は何か。次に挙げる官職からい答えよ。

【選択肢】 掌たね侍じ(なないのごやひ)・尚なう侍じ(なないのかみ)・典てん侍じ(なないのやち)

三二 傍線部「内うち侍じに奏してなさむ」を敬語表現・助動詞に注意して口語訳せよ。

三三 傍線部「左ひだり兵へい衛ゑ督とくの」語かたごり給ひつ」を口語訳せよ。

三四 文中より全ての係り結びを抜き出せ(和歌・会話を含む)。

三五 この作品は、一般に文学的分類のどの分野に属するか、答えよ。また、作者名を漢字で答えよ。

三六 文中の「公任の宰相」と「俊賢の宰相」に「藤原齊信」と「藤原行成」を加えて何と言いか、漢字二字で答えよ。

- 一 訳「一月の月末（うすつき）」 読み＝「きわむき」(本来「きわむき」は「如月」と表記するが、「にがし」と読んで問題にならないので)
- 二 訳＝「風が激しく吹いて、空がたいへん暗く雪が少しちりちり(降つ)ている」(存続の「たり」。「ほし」は一般に時間を表す。)
- 三 読み＝「このもしかた」(このもすかた)も可。) 意味＝「主殿寮の役人」
- 四 「かして候ふ」＝「うめたくたれし」
- 五 訳＝「(主殿寮に)近寄る」 主体＝「筆者」(清少納言)は文中の人物ではないので「筆者」と答える。)
- 六 訳「これは公任の宰相様からのお手紙です」 人名＝「ふじわら(の)きんたう」(ふぢわら(の)きんたう)可。それ以外は不可。
- 七 訳＝「なるほど今日の空模様じつてもよくなっているが」(けい)＝「なるほど」。「けしき」＝「この場合は「空模様」。「を」は接続助動詞＝「たる・存続」(「〜テイル」と訳される。)
- 八 「これ」＝「公任の和歌(の下の句)」
- 九 「本」＝「(和歌の)上の句」
- 十 訳＝「どのように作ったらよい」だんごてい 思い悩んだ 助動詞＝「べから・適当・む・推量・ぬ・完了」
- 十一 意味＝「だれそれ(です)」(実際は具体的な人名を挙げたが、文中ではぼかしている) 主体＝「主殿寮」
- 十二 訳＝「(公任様と同じく)同席されている方々は皆様」(こちらが氣後れ)きあぐれ)するほど立派な方々のなかで、「(出るほど)」
- 十三 「宰相の御いらく」＝「(公任の)宰相様へのお返事」(「いらく」＝「返事」。「うらふ(答らう)」＝「返事をよめる」)
- 十四 訳＝「どのようにして何でもなごうに言ひ出せる」だんごか いせ そんごう 簡単にはできないこと (係助詞)か は疑問) 助動詞＝「む・可能」(「の」は出ない。)
- 十五 訳＝「ただただ心苦しむので」(文脈上)が、も可。出題者のクラスのノートの通り解答するのが賢明。文法書P102参照) 行動の抜き出し＝「御前に御覽せむせむ」
- 十六 読み＝「おまへ」(おまえ)も可。) 具体＝「(一条天皇)中宮定子」(「定子」・藤原定子)も可。「中宮様」は微妙。)
- 十七 訳＝「ご覧に入れようとしたが」(御覽も)＝「見る」の尊敬語「ご覧になる」。「せち」は使役「〜せせる」。「む」は意思「〜よう」
- 十八 「上」＝「天皇」(帝)御門)・「天皇様」など 同義可。重要古語) 文中における「上」＝「一条天皇」(出ねえが知っておきたい。)
- 十九 訳＝「天皇様がいらっしやうとお一人はお休みになつ じつる」 (「おはじまつ」＝「いらっしやる」。「おいごになる」＝「大殿籠る」＝「お休みになる」。) 助動詞＝「たり・存続」
- 二十 意味＝「早く早く」(大事) 説明＝「筆者が公任への返事を書へよう」(「〜よう」で結ぶ。)
- 二一 訳＝「なるほど」(歌が下手なことに)返事が遅くともひるはひは「む」は婉曲「〜ようにな」
- 二二 「たぐ」＝「添加の副助詞で、返歌が下手なことだけでもまもりのいふ、そのへんは、いふほどはなぬと思ふ」といふ心理を添加している。
- 二三 訳＝「本当に取り柄がないので」(理由の「む」。)
- 三四 訳＝「おまへと(思つて)」(「うひひもなわ」と(思つて)、なや「やけのやなはち」的な事なら可。)
- 三五 訳＝「空が寒いで、花に似せて散る雪」(よびて)。(形容詞語幹「〜み」で「〜から」「〜ので」。「形容詞語幹の用法」。基本) 引用元＝「白氏文集」(ちなみにな)「と」かあった言葉を引用して歌に読み込む、技法を「本歌取り」と言ひ。)
- 三六 訳＝「震え震え書いて渡したが」(渡して)も可。文法書P101参照。「わななく」＝「ふるえ動く」。「わなわなと震える」) 「わななく」の理由＝「緊張と寒さのため」(理由は「〜だから」「〜のため」で結ぶ。)
- 三七 訳＝「先の方々が」(公任様達が)私のこの返事を見てどのように思ひこんだらうかきえること (いら) (「情けない」も可。) 助動詞＝「らむ・現在推量」(出るか。)
- 三八 訳＝「私の返事についての」(先方様の)批評を聞きたいと思つた(「はせ」は願望の終助詞。「に」は接続の接続助詞)
- 三九 助動詞＝「もし私の返事が」(けなされてくるならば聞かないでもうして思つていこと) (未然形)「は」＝「仮定」「〜ならぬ」。
- 四〇 助動詞＝「れ・受身 たら・存続」(「打消意思」)「受け身 不可」「打ち消し意思 不可」表記は「確実」。
- 四一 人名＝「中納言源俊賢」(権中納言源俊賢)も可。出ねえよ) 大和名＝「参議」(特に日本史の人は覚えていて損はない。)
- 四二 意味＝「やはり」(古今異義語)「なほ」の意味が「なお」なら問題になんかならない。聞き覚えのある言葉だからって喜ぶのは徳か。)
- 四三 名称＝「掌侍(なごのつち)」(内侍司の第三階官)「カミ」スゲ ショウ サカシ。但し内侍司は三つまづ。日本史では重要語)
- 四四 訳＝「天皇様に申し上げて内侍にいたす」(奏す)は「天皇」(上皇)に言ひ。相手が皇后や皇太子なら「啓す」。重要。「む」は意思)
- 四五 訳＝「(現在は)左兵衛督で」(当時)中將でいらっしやうた方が、お話しなつた(「おはせ」＝「いらっしやる」。「に」は過去) 係り結び＝「いそすた(四行目)・なむし(十四行目)・そし(十五行目)〜一行目」
- 四六 「係り結びを抜き出せ」と言われたら、係助詞と結びの用言を抜き出す。問題の意味が分かりませんかと言わないように。)
- 四七 分野＝「随筆」 作者名＝「清少納言」(出ないなら当然すき出して出ないほどの常識)
- 四八 公任+俊賢+齊信+行成＝「四納言」(しなご) 一条天皇代の優れた納言 出ねえよ。)

